



特254
602

新書齋集覽

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



特 254
602

以下大體ハ十四法による
大體上スキク一ト下をお用

宇
宙
官
宮

臣
臣
臣

山
山
山

地
裁
直
者
多
方
り

旦
旦
中
の
二
横
画
の
始
筆
は
餘
り
押
へ
ない

至
皆
下
へ
そ
う
の
は
俗

下
の
一
の
終
筆
押
へ
て

直
且
至
里



助
幼
即
却

讓
左高うして
右は遠う
必
臣
上へりねばす
時毛先でかき

晴
味
績
時

讓
右
十二月
目
日
空間

體
補
願
順
川

左
右
衣
示
願
川
変化あり

謝
樹
衛
術

三
右
中
の
三
部
を
三
部
の
方
に
五
十
十
は
不
可
術
中
央
本
と

二 上下二段
段異しく

昆 恙 需 留

上部幅
せまく

三折に

留

三段にまゝのもの
字典能は章

章 意 素 累

右へ出す
心なしく中央へ

圭 三の間開
き退ぬ極

予

上部ひろく
すくもの

雷 雪 普 昔

雪

平せまく
せむ

243

下部ひろく
すくもの

死不可
界也 乃
変方向

西 せまく
かゝる様

禹了もいかに
出す場合の多

衆 界 要 禹

數 敬 劉 對

左大て畫柳 畫 右小て畫あり 專 苟

劉 是は字典體

業

前の字と 騰のほろ 騰うんせ 反射

古

旁下らぬ振

騰 施 故 地

弼 辨 衍 仰

左方ゆせて長く 中央肥て短く

辨

衍

仰 誤

上下平たくてつれ 中間せまうて長いもの

寡也 寡

あつもの 仰 柳 留 柳 柳 留

鸞 鳥 鶯 寘 叢

中間より一つかり
書く字

蕃
華
衝
擲

華

衝

擲
酉由
三本にする

上下にけねある場合は
上のは小さくせまく下は大きく長く
九つ長く
つけ遅ぬ
穴兆也

冠
寇
窳
宅

心
方
面

これ等の字は下で
せまくなくね様

固
右指
長く

門

けね中のは小さく
右のは大きく

國
固
門
闌

これ等は下で
狭くなくね様

丙
上下左右
對稱に

了

丙
修り狭く
なくね様

南
丙
雨
而

横の間のひく
董と書く
畫画と書く
すめて横畫の長
さの変化に注意

壽 薑 薑 畫 畫 量

三朝より成る字互に
讀りあつてねはななる
久れと大ききす
下を重く邪意にひく
畫の多い字は
細く書く

馨 馨 馨 繁 繁 繫

画の少い字はひく
介也
介
介間等々終筆
皆変化して片の
この形の
一も疎明

瓜 介 川 不

これ等の字は
中間下らぬ
標
各扁上方に
介

繼 繼 纏 纏 纜

懸針を用
あつ字

車 申 中 巾

ト

初は毛先左にある
が中頃が中心に入る

口の辺で稍遅くすれば
押へて早くする

垂露を用
あつ字

軍 年 單 畢

年

單とせぬ方
よろし

畢
よ

上を平にす
右下はそろはぬ

師 明 壯 野

丁

才は不可

予

下が太龍をふって
上のそろはぬ字

朝 叙 叔 細

叙に
し

書家は多く
料と書く

口
細

上をゆるやかに
する字

安可亭市

安 順一
可 亭

一長く
下で狭
くせぬ

三 餘り離
れぬ様
三の中央
より書初む

春眷夫太

下をゆるやかに

一と長くする字
分間
吾

玄
左右の釣

婁喜吾玄

たりの画に譲る字
一 縦画の上に
けせる字不可
一 一 斜り方
注意

二二

甲千平午

波 継

これ等の字は
上を小さくする

初より左斜
にせぬ様

丈 尺 吏 吏 史

波 横

十を押へ筆の腹は
ふ角をつくる

角の所は少
筆と止める 且つけぬ方

人 左へ出さぬ

道 之 是 是 足

戈 継

正は不可
離さぬ

弯申過ると
カ加ぬけり

幾も
すこれかノの

厶

武 成 幾 幾 夷

戈 横

心 高し
斜右よへ

けねは両
長の間へ

初押へぬ

志に
よ

必

心 思 志 必

屈脚の勾は両
足を包む様

烏馬馬馬為為

順
言

為に

為為
外へ出ぬ様

二〇

上と承くるノは
中心に

天文支父

又
心持下ける

又
中央にて
交る

父
ノハハの
中央より出る

曾
活字の様
に書かぬ

当羊

英英
書

仰直覆
三

曾善英羊

其
曾頭は上
が開き
其脚は下
が開く

具典

与

其具典與

二二

長方のもの 罔
了 芒吉口ひくの下り過ぬ様

短方の西 皆下部を 右のあき 順
狭くする

西 曲 回 田

しはなます 良 長

民 氏 良 長

力撃の重つとさかい 及 稍下の 下部の開き方 中心より

友 及 反 菱

采 孚 妥 受

三個の長形も方向も変り
隔を同じく

上の中心より
左にたがふ様

人 押へて又引く
少く押へて

四つの長方向
書けて

昭 そらへて

四つの長脈絡
貫通する様

然然、の形
了しよ

無 照 點 然

ウ、れをひらへて
中を廣くする

中に書くもの下り
過ぎぬ様

專

菊 菊 蜀 蜀

句、の中を飾り
廣くする

句句は同一字かれど
今は別けて使つて居る

旬 旬 勾 勾

「」下方
この形に
なる様

東 東 來 來 未 未

來來未
ぶれたしよ

「」押へぬ
「」押へぬ故

緯句(餘り上向けね句) 三

乎 乎 予 予 于 于

予

干かの字はねぬ
于の字はねぬ
皆はゆる

伸句(はねの前を
長くする字)

紫 紫 旭 旭 勉 勉

紫

旭

勉

屈句 句を曲げて
釣合

鳩鳩 球毬 など工夫
すつと面白

鷓 鷓 輝 輝 頰 頰

頰

次の字と比べて割にたの
垂の長字

筭 并 亦 弗

右の垂の順
長字

升 赫 拜 卯

叔也か間
正しく

扁旁の音
きた注意

卯也
卯也

蓋下八田

會 合 金 舍

御五覆

五

舎に

下で居る字

琴 谷 吞 吝

火心向く

口はねぬ

口横

鳳 風 飛 飛 氣

し 縦腕

乙 風

順 飛り飛

しをししなをしき

し 横腕

九 子過ぎ

九

し 細過りの
病筆

缶

し 鶴膝と
病筆

見 先 尤 免

し 縦撃

厓

小 左右の釣合

庶

戸 居 原 庶

ノ 横撃

横画のそり 骨のみ細く長いのは
方注意 鼠尾としか病筆

ノ 此辺にて少
押へ気味

少

孝 老 省 少

三聯擊 多 上の胸の辺が
比のとき

參 彦 形 彫

散水(聚水)

向てはむる

母

れのみ
お下ける

沐 波 池 海

わざた風に書く字はあふた
析れた様ではいぬ

上にはね返す時

毛先へ出まわす

寸 少右に
傾ける

能横用
長さに

了 卜 才 寸

肥た風に書く字はあふた
はれまの揺ではいぬ

止 結いぬ

本

本

土 止 山 公

画が多く複雑な字 複雑でも混雑した所のない様

羸 齋 龜 鼈

了乃及ノ頁ノ

あゝの字 〽 〽 〽 士 押つゝ 押つゝ 〽 〽

上 下 士 千

堆積した字であり 上のは平たく下のは 縦長にして釣合をとり

石 碯

晶 品 田 田 石 碯

堆積した字 能くあつて 〽 〽 〽

樹 影 〽

二二二 雷 亞

歴

爨 鬱 鬱 靈 巫 縻

右の正しくなる
字である

入

入
不可

八

乙

乙(巳)は上にたのれつらめ
下にたのれつらめ
中程につく

乙

己

全體が圓くなる
字である

響

画の太い細いや各部分の誤り
念をよく見ること

響

響

木
下なる

響

斜になる
字である

母

勿

勿

乃
その方
変化あり

乃

全上

力

真直になる
字である

主

順一ニ

王

正
よ

正

本
本でよ

本

炎 昌 昌 昌 圭

一重なる下を
字 大きく

分間
研く

圭
す

左右に並ぶものを
右を寛めた

左右多少の變化
を要す

羽

弱

竹 林 羽 弱

長くな
る字

長いなりて形をとら
しめて短くしてはなすね

順一三ー一 耳

耳の終は川
いって

自 目 耳 苛

短くなる字を長く
しやうとせぬこと

曰 あけた方が
よい

目

四
い

白 曰 曰 四

大きくなる字 囊

震 展 襄 囊 囊 囊 囊

小さく書く字

么 口 小 工

小口のあき

工仰覆

扁旁共内部を縮
めて互に譲り合ふと

好 妙 舒 筋

相背き合ふ字
脈絡貫通す標

兆

孔 乳 兆 非

非

无

慨誰能與

順イナ三
能下へ長く出た

能

与

四四

我我我

力のり方
今の何

畏

致し書

我同恨殺

戈二つの変
化を見よ

糸
右へ出過ぬ様
飛

三折法

殘紅飛白

丑

順
正又

元

△は押へぬ

次の頁の陵
との変化を見よ

北延元陵

四五

正

上落
花風

長の真下で
イより七下りぬ様

八向ひ合つて
そらせり

正

古陵
松柏

下部
正

公
縦長なる
ゆ様

正

中

吼天
颯山

颯
颯しき

山

正

寺尋
春

分間
可

三横画の長
き目意

刀は俗體書家
の字にはな

山禽叫斷

禽

リとリ

扁窮に下るの標

又出さる方より 前出の字との

夜寥々無

まにと 先よ

要 ↓

上 稍

稍廣

風

順

限春風恨

△ 稍下

筆 右へ出る 筆の標

雨冠 大きく

臥臥

未銷露卧

延元陵下

上離

麦

二画異長

月滿身花

了

滿

身入離

了

影夢南朝

多右へ出過ぬ程巨身

四つノ部全の幅

口左身

三画のち

皇師百萬

分間

官

一長

山離

楷書にも正しく
書丁よ

ムと口とはよく
共通する

虜虜
考

旁の下部下
標

征強虜野

單

工
上
替
け
ね

成
下
け
ね

死

戰攻城屍

乍
ニ
兵
ニ
リ
過
ゆ
様

山

由
これ
は
省
く
方
か
考
ま
よ
い

い
い

作山愧我

何

斤
長
く
し
下
へ
出
た

看
俗
字

何顔看父

出文協承圖510116號

440
249

發行所

製複許不



昭和十九年三月二十五日印刷
昭和十九年四月二十五日發行
(發行部數四千部)

新書道要訣

定價 壹圓六拾錢

(賣價税込金壹圓六拾九錢)

書者代表

柴田 虛白
東京市神田區神保町二ノ三六

發行者

鈴木 康之
東京市神田區神保町二ノ四六

印刷所

光村 策司
東京市神田區西神田一ノ八
印刷部員番號四三九九番

配給所

日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町二丁目九番地

東京市神田區神保町二丁目三四

泰東書院出版部

電話神田四二五四八番
振替東京七四七二〇番
文協會員番號一一六〇三〇番

老凱歌今
日幾人還

老 分同与く
方変化

日 横画は
りふ形は

今 今 今
字の秋

五六

終

